



第11回 西部ガス タグラグビーフェスタ 実施要項



大会名称 第11回西部ガス タグラグビーフェスタ

目的 福岡地区の小学生から一般社会人に至る幅広い層の人々が、ラグビーから接触プレーを除いた安全で運動量の豊富なタグ・ラグビーをプレーすることにより、仲間と助け合って自ら考えて道を切り開くラグビースピリットを身につける楽しさと教育効果を通じて、スポーツの意義を実感できるイベントとする。

主催 福岡県ラグビーフットボール協会

特別協賛 西部ガス株式会社

主管 福岡県ラグビーフットボール協会

後援 福岡市教育委員会

開催日 令和2年3月29日(日)

会場 平和台陸上競技場(福岡市中央区舞鶴)

競技規則 小学校低学年は(財)日本ラグビーフットボール協会 U8 規則による。中学年以上は(財)日本ラグビーフットボール協会主催の全国小学生タグラグビー選手権大会規則に準ずる。
※競技規則の詳細は別紙に記載。但し、競技規則は参加チームの習熟度により柔軟に適用する。

実施方法 ゲームは参加チーム数により決定するが、交流を目的とするため対戦チームは主催者にて配慮する。また、個人参加者を対象としたタグラグビー教室を併催し、楽しくゲームが実施できるまで指導する。当日の日程は参加者、参加チーム宛に後日連絡する。

参加資格 【小学生低学年の部】U8 規則

- (1) チーム参加の場合、小学生(日本の学期制による)の原則5~10名で編成したチームとし、1から2年、男女の編成内容は問わない。個人参加も可能とする(但しタグラグビー教室に参加)。
- (2) 参加チームは原則として成人2名が帯同コーチとして引率し、児童の保護者から参加の承諾を得ていること。個人参加の場合は、保護者が同伴すること。
また、大会要項その他主管団体の定める大会規則の遵守を誓約すること。
- (3) チームの帯同コーチは当該チームを指導掌握し、責任を負う事の出来る者であること。
帯同コーチが複数のチームを兼任する事は構わない。

【小学生中学年及び高学年の部】

- (1) チーム参加の場合、小学生(日本の学期制による)の原則5~10名で編成したチームとし、3年以上、男女の編成内容は問わない。個人参加も可能とする(但しタグラグビー教室に参加)。
- (2) 参加チームは原則として成人2名が帯同コーチとして引率し、児童の保護者から参加の承諾を得ていること。個人参加の場合は、保護者が同伴すること。
また、大会要項その他主管団体の定める大会規則の遵守を誓約すること。
- (3) チームの帯同コーチは当該チームを指導掌握し、責任を負う事の出来る者であること。
帯同コーチが複数のチームを兼任する事は構わない。

【一般の部】

- (1) チーム参加の場合、中学生以上(日本の学期制による)の原則5~10名で編成したチームで、年齢、男女の編成内容は問わない。個人参加も可能とする(但しタグラグビー教室に参加)。
- (2) 中学生の参加チームは原則として成人1名が帯同コーチとして引率し、生徒の保護者から参加の承諾を得ていること。
また、参加者、帯同コーチは大会要項その他主管団体の定める大会規則の遵守を誓約すること。
- (3) チームの帯同コーチ、または代表者は当該チームを指導掌握し、責任を負う事の出来る者であること。
帯同コーチが複数のチームを兼任する事は構わない。

安全対策 (1) 主管団体が所定の救急指定病院を定める。

- (2) 試合中の傷害について応急の医療処置は主管団体が施すが、事後処理はチーム及び保護者が行うものとする。
- (3) 大会中に起きた負傷・事故等に関する費用は、主管団体が加入する傷害保険の範囲内で負担する。

参加料 参加1名当たり200円とする。(傷害保険料に充当する)

用 具 大会で使用するタグセット、ボール、ビブスは主管団体が用意する。

その他 参加者を対象にした「お楽しみ抽選会」を行う。

参加申込 別添の参加申込書により申し込む。

締切り： 令和2年3月22日(土)

申込先： 福岡県ラグビーフットボール協会 普及育成委員会タグラグビー担当：小野 創 行

fax：092-715-0585

※ 参加申込書に記載された個人情報責任者との緊急連絡、対戦チーム組合せの際の参考とする他、傷害保険の手続きにのみ使用するものとし、その他の目的では一切使用しない。

また、フェスタ参加者の肖像権ならびにそれに付随する全ての権利は主催者、主管団体にあるものとする。(新聞、公式ウェブサイト等に掲出される可能性がある)

問合せ先 福岡県ラグビーフットボール協会 普及育成委員会タグラグビー担当 小野 創

携帯電話： 090-3607-8650

Eメール： miyakeyr.ono@gmail.com

FAX 092-715-0585 (福岡県ラグビーフットボール協会事務所)

以上

グラグビーフェスタ競技規則

これは標準的な競技規則です。選手のスキル、経験に応じて相手チームと協議の上で変更することは可能です。

- 1、試合開始時に双方のチーム代表プレーヤーがトスをし、勝った方が試合開始のフリーパス、またはサイドのどちらかを選ぶ。
前半7分―ハーフタイム1分―後半7分とし、前半と後半でコートチェンジを行う。
後半開始のフリーパスは前半のフリーパスでない方のチームが行う。
- 2、フリーパスとはボールを持ったプレーヤーがその位置から動かずに、自分より後方のプレーヤーにパスをすることである。
その時相手チームは必ず5m下がらなくてはならない。
- 3、試合開始はグラウンドセンターからのフリーパスにて行う。
トライ後の再開はグラウンドセンターからトライをとられたチームのフリーパスにて行う。
- 4、ボールを持ったプレーヤーは前後左右どの方向にも自由に動くことができる。
- 5、守るチームのプレーヤーは相手チームのボールを持つプレーヤーのタグを取ることができる。
- 6、タグを2本ともつけたプレーヤーだけがプレーに参加でき、またトライをすることができる。2本のタグをつけていないプレーヤーがボールを持った場合は反則とし、その地点から相手のフリーパスでゲームを再開する。トライ直前にタグをとられたプレーヤーがそのままインゴールに入ってトライしても、トライは認められない。ゴールラインから5m地点までもどって、フリーパスでゲームを再開する。 ※1
- 7、得点は、ボールを持っているプレーヤーが相手インゴールにボールを置くことによって得られる。ゴールラインはインゴールであり、タッチインゴール及びデッドラインはタッチである。トライは立ったままで行われなければならない。その際、両足はインゴール内に入っていなければならない。片足または両足がインゴールに入っていない状態でのトライは認められず、ゴールラインから5m地点までもどって、フリーパスでゲームを再開する。
- 8、タグを取ったプレーヤーはタグを相手に手渡しで返すまでプレーすることはできない。
また取られたプレーヤーは取られたタグを返してもらい腰に付けるまでプレーすることができない。
- 9、ボールを持ったプレーヤーは、タグを取られないように手で押さえたり、体を一回転以上させることはできない。
- 10、タグを取られたらただちに前進をやめ、ボールを離さなくてはならない。めやすは3歩以内だが、すぐに前進をやめられたのに故意に前進を続けたとレフリーが判断した場合は、たとえそれが3歩以内であったとしても反則とする。 ※2
- 11、試合中、相手プレーヤーと体がぶつかるプレーをすることはできない。
具体的には、タグを取りに来た手を払うこと、手で相手を突くこと、相手を捕まえること、体当たりすることなどであり、手を広げてのディフェンスも禁止とする。また、タグを取りに行く際に、自分からは遠い側のタグを故意に取りに行くことにより、相手プレーヤーの前進を妨害し接触を誘発するタグの取り方も禁止する。
- 12、一切のキックは禁止し、地面に転がったボールも屈むなどして立ったまま手で拾わなくてはならない。
- 13、ボールは自分より前に投げることはできないが、真横へ投げることはできる。
自分より前に投げた場合はスローフォワードとし、パスを受け損なって前に落とした場合も前に投げたとみなしノックオンとする。スローフォワードやノックオンが起こっても、そのボールを相手が拾うなどした場合は、アドバンテージを適用して反則をとらないこともある。
- 14、タグを取られたプレーヤーの地点を基準として、守るチームはその地点より相手側でプレーすることはできない。 ※3
- 15、フリーパスからの最初のパスをもらうプレーヤーはパスをする選手から2m以内になくなくてはならない。
走りながらパスを貰う場合はそのスタートする地点を2m以内とする。
- 16、上記8～15の禁止事項は反則となり、その地点から相手ボールのフリーパスとなるが、反則をしたチーム側のゴールラインから5m以内の反則の場合は5m地点でのフリーパスとなる。
- 17、タグを4回取られると最後にタグを取られた地点から相手ボールのフリーパスとなる。
- 18、タッチライン上はグラウンドの外でありそれはインゴールにおいても同様である。

ボールを持ったプレーヤーがタッチラインを踏んだ場合やタッチラインから出た場合、またボールがタッチラインに触れた場合やタッチラインから出た場合はその地点のタッチラインの外から、その時点でボールを持っていたチームの相手チーム、もしくは最後にボールに触れたチームの相手チームのフリーパスとなる。タッチラインの外からのフリーパスはタッチライン上の地点より直角もしくは後方へのパスとする。ゴールラインから 5m 以内でタッチラインから出た場合は、次のフリーパスはゴールラインから 5m のタッチライン上から行う。